



ジャカルタの移動手段

ジャカルタといえば、人口が多く、人で混雑している大都会という印象を浮かべる方が多いだろう。実際、そのとおりなのである。ジャカルタ市の人口は約986万人、東京23区よりも多い。また、ポゴール、タンゲラン、デポック、ブカシといった周辺部を含めると、ジャカルタ都市圏には、おおよそ3100万人が住んでいる。この数字は東京都市圏に続いて、世界第2位の多さを誇っている。さらに、人口密度からすると、東京都市圏の4,400人/km²と比べて、ジャカルタはその2倍強となる9,500人/km²であり、人も住宅もかなり混み合っている状況である。これらの数字を見る限り、ジャカルタの悪名、つまり、交通渋滞は当然のことと納得されるのではないかと思われる。そこで、その渋滞を乗り越える様々な交通手段を紹介したい。

(1) オンラインのバイクタクシー (Gojek, Grab, Uberによるサービス提供)

ジャカルタ周辺で安く早く移動方法を探すのであれば、オンラインバイクタクシーだろう。ジャカルタを訪問した人は、緑色のジャンパーを着ている人が運転するバイクを目にしたことがあるに違いない。バイクタクシー (ojek) は、交通渋滞でも細い抜け道を走ることができ、従来から人気のある移動手段の一つであった。2014年には、ジャカルタにおけるスマートフォンの普及と相まって、バイクタクシーのオンラインサービスが始まった。新サービスでは、アプリケーションによる車両予約時に運賃が確定するので、それまでのように路上で運転手とあれこれ料金交

渉をする必要がなくなり、より便利に使用することができるようになっている。ジャカルタで時間に追われるときは、一度試してみても如何だろうか。



ジャカルタのありふれた風景 - Uber や Gojekの運転手が互いの行き先を尋ねている。(出所: arenalTE.com)

(2) オンラインカーシェアアプリ (Go-Car, Grab, Uberによるサービス提供)

バイクより快適に移動したいということであれば、冷房が効く車に乗って移動したいと思うだろう。しかし、ジャカルタ市内は、極めて交通量が多い。また、殆どの車に乗っている乗客の数は、一人か二人ほどしかない。そこで、Uberは、ジャカルタでカーシェアのサービスを提供し始めたようだ。料金は、タクシーよりやや安価に設定している。日本では「自家用車による運送サービスは違法タクシー営業行為に当たる」とされ、過去に導入が検討されたこともあったが、その営業は認められていない。現地人との相乗り (カーシェアリング) は、訪問先での楽しみを倍にするかもしれない。

(3) トランスジャカルタ (バス)

ジャカルタでは、バスを利用するのも渋滞による立ち往生を避けるための良い選択肢である。トランスジャカルタは、渋滞がひどいときでも他の車両の通行を禁止した専用レーンを持っている。このバスは13路線あり、ジャカルタのすべての主要なエリアを網羅している。



トランスジャカルタ(出所: merdeka.com)

(4) ジャカルタコミューターライン (KRL ジャボデタベック列車)

ジャカルタコミューターラインもまた、多くの通勤者にとって、人気の交通手段である。その車両は、ほとんどが日本から輸入され、その多くは実際に東京メトロで活躍した後、引退した車両である。しかし、日本と同様に、ラッシュ時には満員電車での移動を余儀なくされるので、この交通手段は避けたほうが良いだろう。



ジャカルタコミューターライン(出所: liputan6.com)

(5) MRT (建設中) 地下鉄区間を含む都市高速交通

おそらくジャカルタでもっとも人々に期待されている交通手段がMRTである。このMRTは、国際協力機構 (JICA) と国際協力銀行 (JBIC) の統合により出来た新生JICAの円借款による資金援助がなされている。このMRTシステムは、住友商事株式会社と日本車両製造株式会社が提供する多くの電子部品を採用している。第一区間となる13駅15.6kmは、2019年の完成が期待されている。第二、第三区間はまだ計画中ではあるが、この交通手段が、ジャカルタでもっとも期待されている交通手段であり、この計画により交通渋滞が大幅に解消されることが見込まれる。

著者紹介

Mr. Emirsyah Dinar (エミルシャ・ディナル)

GIP ASEANインドネシアオフィス (AFFA) アソシエイト。1991年ジャカルタ生まれ。ニュージーランドのヴィクトリア大学卒業後、インドネシアのガジャ・マダ大学院卒業。2014年より知的財産分野のキャリアをスタート。商標と特許担当。2016年コンサルタント試験合格。2016年よりUnited GIPs グループに参加。趣味は、ラグビー、サッカー及び旅行。

編集者紹介

魯 佳瑛 (ノ・カヨン)

日本弁理士、新樹グローバル・アイピー特許業務法人所属。1981年韓国ソウル生まれ。ソウルの成均館大学卒業。2006年よりソウルの特許事務所での知的財産分野のキャリアをスタート。結婚をきっかけに来日。2014年日本弁理士試験合格。専門は、商標・意匠・著作権。夢は世界一周。